

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習 II-2	OSP34-001	必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小沢 健一 他	C305	k-ozawa	火曜日 12:00~13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習 II-2 では、MTDLP を用いて対象者を理解し、作業療法を実践するために、評価、統合と解釈、焦点化までの習熟を目的とする。また、医療・福祉機器を理解し対象者へ適切な提供ができるよう学習する。さらに、臨床実習に向けて、模擬患者に対して今まで学習した専門技術を実践することができることを目的とする。授業は原則、面接授業で実施する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	本科目では臨床医学系および作業療法評価学の知識を復習し、体系的に理解しておくこと。実際場面を想定し、自分で考え、行動できるようにしておくこと。不明なことは積極的に教員に質問をおこない、その都度明確していくことが必要である。				
教科書	標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディ 第3版 / 編：濱口 豊太：医学書院 / 2020 ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版— 障害者福祉研究会編集 中央法規 【2冊指定】				
参考書	PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編。金原出版 PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編。金原出版				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	MTDLP のプロセスを実践できる。			OT (2)、(3)	
②	対象者の模擬的場面に則した、福祉機器の概要を説明できる。			OT (1)~(3)	
③	特別支援学校において作業療法士が保れる職務内容の特徴について示すことができる。			OT (2)、(3)	
④	作業療法実践の模擬的場面で、作業療法技術を展開できる。			OT (1)~(3)	
⑤	統合と解釈・焦点化したものを他者にわかりやすく説明できる。			OT (2)、(3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)	
1	オリエンテーション 地域実習、国際医療福祉機器実習、ふじざくら支援学校実習、OSCE について	[担当] 小沢	講義・演習	事後：配布資料を復習する。 後期の学習計画の立案	1
2	MTDLP に関する演習	[担当] 浅野	GW	事前に配布した資料を調べる。	1
3	MTDLP に関する演習	[担当] 浅野	GW	演習で行った内容をまとめる。	1
4	MTDLP に関する演習	[担当] 浅野	GW	演習で行った内容をまとめる。	1
5	MTDLP に関する演習	[担当] 浅野	GW	演習で行った内容をまとめる。	1
6	国際医療福祉機器展に参加	[担当] 向山	実習	福祉機器展に赴き対象者に適した福祉機器を選択しレポートにまとめ発表する。	1
7	国際医療福祉機器展に参加	[担当] 向山	実習	福祉機器展に赴き対象者に適した福祉機器を選択しレポートにまとめ発表する。	1
8	国際医療福祉機器展に参加 福祉機器についての発表	[担当] 向山	実習・発表	福祉機器展に赴き対象者に適した福祉機器を選択しレポートにまとめ発表する。	1
9	ふじざくら支援学校にて実習	[担当] 渡辺	実習	ふじざくら支援学校にて実習を行い担当児童・生徒の課題をレポートにまとめる。	1
10	ふじざくら支援学校にて実習	[担当] 渡辺	実習	ふじざくら支援学校にて実習を行い担当児童・生徒の課題をレポートにまとめる。	1
11	ふじざくら支援学校にて実習	[担当] 渡辺	実習	ふじざくら支援学校にて実習を行い担当児童・生徒の課題をレポートにまとめる。	1
12	治療・介助の実践を学ぶ：様々な症例に対する関節可動域訓練・筋力増強訓練・移乗動作・更衣動作・喀痰吸引等	[担当] 小沢	演習・実習	行った実技を練習する。	1

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

13	治療・介助の実践練習	[担当] 小沢	各教員について実習	臨床を想定した実技練習。	2
14	OSCE	[担当] 小沢	実技試験	その日に行ったことの振り返り。	1
15	OSCE	[担当] 小沢	実技試験	その日に行ったことの振り返り。	1
試	定期試験は行わない				

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	30	10	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	5	0	0	0	45
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	5	5	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	実技試験は、ある疾患を想定した関節可動域訓練・筋力増強訓練・移乗動作訓練・更衣動作訓練・喀痰吸引などの治療介入を行う。作業療法の基本的な技量および治療の基本的な技量についての習熟度を問う。(60%)	試験実施直後に口頭にてフィードバックを行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①	模擬事例について、作業療法評価の過程をMTDLPでレポートにまとめる。また、支援学校にあける作業療法士のかかわり方をレポートにまとめる。それぞれ、過程やレポートの内容をルーブリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。(30%)	レポート提出後に各担当者により実施する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①	福祉機器展に参加し、模擬事例に適した福祉機器の選択を行い、メリット・デメリットについて発表を行い、内容をルーブリックで評価する。(10%)	発表後担当教員が口頭でフィードバックを行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備考

他担当教員	志茂 聡、榎田 哲弥、浅野 克俊、小川 麻里子、岡 猛、渡辺 俊太郎、向山 秀
教員の実務経験	本科目の担当教員は10年以上の臨床業務経験がある。
実践的授業の内容	配布資料と併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。
その他	この科目ではレポート課題が提示されるが、生成AIによるレポートの作成は禁止します。 使用が発覚した場合には単位の認定はできません。 授業形態：この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 演習グループは、前期の演習の習熟度によって、授業効果が最適化するようにグループ編成を行う。 履修に関して：この科目の単位修得が臨床実習Ⅲ（評価実習）の履修要件である。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって、シラバス変更の可能性はある。